

評価項目	具体評価項目	目標	基準	評価	評価	改善策
確かな学力	授業技術の向上	児童が満足感や達成感を持てるような授業を行う	1人最低年に1回は授業の公開を行っている。	C	C	1人最低年に1回は授業の公開を行えるようにする。具体的には、6月に高学年、9月に低学年担当者の公開を行う。その際、原則全員が参観できるように時間割を調整する。 評価基準については、2007年度に「5本柱」に関わって作成されたものがすでにあるので、それを元に年度始めに学団と教科担当者で話し合い、具体化していく。具体化された基準は、学期の始めと終わりに学団で確認する。また、全体で共通理解を持つ時間も確保する。
			指導方法の工夫のため、個人や学団で定期的に研究の時間を取っている。	B		
			全職員で評価基準の定期的な確認ができています。	C		
	児童への指導	関心意欲態度・思考判断・表現・技能処理・知識理解がバランスよく身に付くよう指導する。	5本柱の力がバランスよく身に付いているかということ振り返る場を個人や学団で定期的・継続的に取れている。	B	B	月始めに1回、学団ごとに5本柱の力がバランスよく身に付いているかということ振り返る場を会議の前に30分間取る。
			学習習慣が身に付くように、定期的・継続的な呼びかけができています。	B		
			個人8割、全体8割の宿題提出率になるような指導がされている。	B		
	教材・教具	良い授業を行えるよう教材、教具を整備する。	必要な教材・教具が適切な場所に整理して置かれている。	C	B	学期の終わりに各場所の担当者が整頓する。また、夏休みの残務整理の時に、全員で廃棄する物を分別し、教材教具の整理をする。 教材教具を過不足なくそろえるための予算立てについては、各教科の担当者が個々の要望を取りまとめ、校長に申請する。校長は全体のバランスを見て調整する。
			教材・教具の共有化をするための情報交換ができています。	B		
			教材・教具を過不足なくそろえるための予算立てが、職員全員の意思を反映する形で行われている。	B		
生活習慣	基本的な生活習慣が身に付くよう指導する。	月目標の呼びかけと反省を定期的に行っている。	A	A	指導を継続する。	
		定期的、継続的な学級指導がある。	B			
		学団ごとに指導重点項目の確認や反省が定期的に行われている。	A			
	規則	学校のきまりを守るよう指導する。	月目標の呼びかけと反省を定期的に行っている。	A	B	スクールバス指導については担当者が年間計画を立て、それに沿って指導を行う。(乗車指導と児童が振り返る場の両方を設ける。)
			定期的、継続的な学級指導がある。	B		
			スクールバス指導が定期的に学期の始めと終わりに1回ずつ計6回行われている。	B		

規律ある生活・  
豊かな心

交友 係達	相手を受け入れ自分から関わる ことができるよう支援する。	振り返りの場を学期に数回設定している。	B	B	自分から友達になる「白百合生」を具現化したものが学級目標になるようにする。
		異学年同士で触れ合える場を学期に数回設定している。	B		
		自分から友達になる「白百合生」を各学年ごとに定期的に確認している。	B		
奉仕	他人のために喜んで自分の役割を果たせるよう支援する。	児童が主体的に活動できる場、時間を確保している。	B	B	掃除で振り返りの場を設ける。具体的には、毎週水曜日、終わりの5分間で自己評価、相互評価を行い、その後の改善につなげられるようにする。
		目的が全児童、教師間で共有されており、それを元に活動が行われている。	B		
		自己評価、相互評価ができるような場と時間が活動ごとに確保されている。	B		
食育	望ましい食生活を知り、実際の行動と結びつけていけるよう支援する。	食育担当による研修、提案、検証が定期的、継続的に行われている。	A	B	各月の安全・清掃・校内・校外・保健・給食の年間指導計画に沿った目標を一覧にし、月始めに担当者が確認・呼びかけを行う。
		給食指導のめあてに沿って各学年で指導している。	B		
		児童、保護者への啓発活動が学期に一度は行われている。	B		
安全	危険な状況を認知し、それを回避することができるよう支援する。	避難訓練、交通安全教室、通学路安全点検、冬の野外活動など、時期に合った適切な安全指導が担当者の明確な目標の下、行われている。	B	B	明確な目標の下、年間計画を立てる。 災害時の避難・交通安全・不審者への対処の仕方などについて、対外的な専門家などに指導を依頼し、実地訓練を行えるよう年間計画の中に盛り込む。 緊急事態におけるマニュアルを作れるよう努力する。
		遊具の使い方、施設の確認等、日常の安全を守るためのルールが全児童、教師間で共有されており、定期的な指導がなされている。	B		
		不審者情報の伝達が確実かつ効率的に行われている。	B		
体力	自分なりの目標を持ち、喜んで体を動かせるよう支援する。	全校運動、業間活動、白百合体操等、年間通して継続的に児童の運動量が確保できるような手立てが計画的に取られている。	B	B	全校児童がそれぞれに目標を持ち、喜んで体を動かせるような手立てを担当者が考え、呼びかけを行う。 なかよしタイムの活動が体力促進につながるよう内容を見直す。
		運動会に向けて、体力や技能を高めるような取り組みが計画的になされている。	B		
		外遊びが活発になるような仕掛けを各学年で効果的に行っている。	C		

特色教育	弦楽	弦楽器に触れることで、豊かな感性や情操が育まれるよう支援する。	弦楽の活動が年間を通して計画的に行われている。	B	B	年間の活動は維持しつつ、指導の形態・手立てを工夫する必要がある。(ボランティア不足の関係) 対外的な場については精選が必要。
			各種コンクール、発表会など対外的な場に向けて、目標を持って取り組めるよう指導している。	B		
			授業の中で弦楽器に触れる機会を計画的に取り入れている。	A		
	英語	体験的に学ぶことで耳を鍛え、英語で表現することができるよう支援する。	体験的に学ぶことで耳を鍛え、英語で表現することができるような授業を行っている。	A	B	本校の明確な英語教育のねらい、方針が必要。今までの資料を洗い出し、参考にしながら来年度一年で形にして行きたい。
			ワンポイントイングリッシュで全児童が日常生活に必要な重要な表現を喜んで行えるよう指導している。	B		
			ハロウィンパーティーが楽しんで英語表現をする場になっている。	B		
縦割り	互いの立場を理解し、自分の役割を果たすことができるよう支援する。	学年に応じた役割分担ができている。(反省をこの視点で行う、以下同様)	B	B	それぞれの行事のねらいを明確にする。	
		教師が適切に関わっている。	B			
		自分の役割を果たし、協力できるよう支援している。	B			
施設・設備	安全	児童が安全な学校生活を送れるよう施設設備を整える。	責任者が年間計画を立て、予算を組み、優先順位に応じて適切に補修・補充作業ができている。	B	B	遊具全般・各教室の施設設備において、安全上不安があると思われるものを責任者がリストアップし、補修・補充作業のための予算組みを行ったり年間計画を立てたりする。
			週番が昇降口などの施設を休み時間ごとに行い、不審者が校内に入り込まないように努めている。	B		
			休み時間の遊びの様子を職員が注視し、安全に配慮している。	B		
	快適	児童が快適な学校生活を送れるよう施設設備を整える。	責任者が年間計画を立て、予算を組み、優先順位に応じて適切に補修・補充作業ができている。	B	B	学校全体に関わる突発的な事態に関する対応は、校長の裁量で指示を出せるような体制にする。
			各教室・教科の担当者が学期末に見回りをし、責任者に報告している。	B		
			突発的な事態に迅速に対応できている。	B		

(保護者・学園・地域社会) 連携	情報提供	媒体ごとの目的を明確にし、効果的な情報提供ができるよう努める。	媒体ごとの目的が明確で、それが全職員に共通理解されている。	B	B	白百合の花・ニュースレター・学園報の対象者・目的を明確にするために、担当者同士で話し合いの場を持ち、記載する内容を確認する。(時期は、年度始めと学期ごと)
			年間計画を立て、それに沿った内容、回数で発行されている。	A		
			読者が魅力を感じる紙面になるよう、工夫されている。	B		
	保護者との連携	保護者の立場を尊重しつつ、学校の考えを伝え、互いに協力しながらより良い学校作りをしてもらえるよう努める。	父母会の各組織が活発に運営されるよう適切な働きかけができています。	B	B	各組織に在籍していない父母の方々にも気楽に教育活動に参画してもらえるような場を提供する。(授業・クラブ活動・弦楽活動・お琴教室の支援または参加など)
			児童指導において、必要に応じて適切な方法で保護者と連絡を取っている。	B		
			保護者からの要求・相談に対して、個人またはチームで学校の方針を明確にし、それが理解してもらえるように伝え方を工夫している。	B		
	行事などへの参加	保護者、園児、児童、生徒、職員、地域の方々が交流できるよう支援する。	行事の目的が明確に定められ、参加者全員に周知されている。	B	B	運動会・小学校祭・クリスマス会については、より多くの人に参加してもらうため、従来のPRに加えテレビ媒体を利用することも考える。
			行事の内容が多くの人に参加してもらえるように工夫されている。	B		
			多くの人に参加してもらえるように呼びかけを工夫している。	B		
	幼・中高との連携	それぞれの立場を理解し、連携できるよう努める。	行事(運動会・学園祭・クリスマス会)の際に連絡を密にし、協力し合っている。	B	C	幼小・小中間で児童理解のための連絡協議会の場を設けられるよう働きかける。(学期に1回を目標にする。) 合同のイベントの案作りを進められるよう幼稚園と中学校に働きかけを行う。
			幼小・小中間で連絡協議会などの場を設け、児童理解に努めている。	C		
			合同のイベント・会議をそれぞれ年に数回実施している。	C		
校務分掌・配置	集団として効率よく最大限の力を発揮できるよう、適切な校務配分を行う。	校長に複数の助言者を含めたメンバーで校務分掌作りが行われている。	C	C	校務分掌についての問題点をそれぞれが出し合い、共有する場を学期に一度設ける。全体で出された意見を集約し、校長と共に話し合いをする機関を設ける。	
		必要に応じて、また定期的に見直しが行われている。	C			
		見直しをする機関が設けられており、その役目を果たしている。	C			

組織・運営	職員 共同 体	聖書の教えに基づいてお互いが認め合い、気持ちよく協力できる教師集団を目指す。	話し合う場が定期的に設定されている。	B	B	主要行事後の会食をゆったり設定し、交流の時間を持てるようにする。
			お互いに気軽に話ができる場がある。	B		
			共通の目標を持っており、その内容も含めた確認が定期的に行われている。	B		
研修	教師としての技量を高め、かつ人間としての成熟を目指す。	学団での研修、テーマごとの研修が定期的に行われており、それが授業の中で実践されている。	B	B	B	研修に参加した人は、研修の内容を簡単に何らかの形にまとめ、全員で情報を共有できるようにする。
		東北地区研修会で得たものが職員全体で共有され、その後の教育活動に活かされている。	B			
		外部研修に一人最低2回は参加している。(夏休み、冬休みを含む)	B			
情報 処理	整理、管理、共有化を徹底する。	個人、共有スペース共に整理整頓されている。(学期ごとの大掃除)	B	B	B	職員会議前の10分間を「片付けタイム」とし、職員室の棚(窓際)と本棚の片付けを全員で行う
		紙ベースの情報の適切なファイル化がなされている。	B			
		デジタル情報の整理、管理がパソコンで効率的に行われている。	B			
児童 募集 活動	広報	対象を明確にし、効果的な広報活動を行う	不特定多数に向けた広報活動が積極的に行われている。(ポスター、ちらし、看板、HP、NL)	B	B	長年に渡り慣習的に行われている広報活動があり、量が多くなってきているのを感じる。より効果的・効率的なものにするため、目的と対象者を明確にするという視点で広報活動全体の見直しをし、有効な活動に絞り込んで計画を立てる。
			特定の対象者に向けた広報活動が積極的に行われている。(イベント案書き、電話、説明会、学校紹介)	B		
			年計に沿って行われており、適宜見直している。	B		
	イ ベン ト	多くの人に足を運んでもらえるような内容を考え、実施する。	年間計画、イベントの企画内容が十分に工夫されている。	B	B	B
有効な広報活動ができています。(3つ以上の手段)			B			
参加者へのイベント後のアプローチ方法がマニュアル化しており、それが実施されている。			B			
協力 委員 会と の 連 携	協力しながら、効果的な募集活動に結びつこう努める。	多くの委員に参加してもらえるよう、効果的な呼びかけを複数行っている。	B	B	B	募集協力委員会の位置づけを明確にする。 委員の仕事内容を具体的に見える形にすることで、より積極的に関わっていただけようとする。年間の活動の見通しを提示すること、議題を事前にお知らせすること、保護者の意見によって活動に結びついたことをはっきりわかる形でお知らせすることなどの実施。 一方的な情報の伝達にとどまらず、お互いの意見を融合させられるような情報共有システム作りをする。
		協力委員の方々が動きやすいように関わることができている。	C			
		情報の共有ができています。	B			